

2024年1月20日

東京学芸大学 文部科学省 令和5年度 委託事業

「高等学校における日本語指導体制の充実に関する調査研究」

## シンポジウム

高等学校における外国人生徒等教育の充実に向けて

－「特別の教育課程」による

日本語指導実施校の取り組みから－

東京学芸大学 本事業企画開発会議 調査部会 齋藤ひろみ

無断での使用・複製・改編・公開・頒布はご遠慮ください。  
引用する場合には、必ず出典を明記してください。  
(本シンポジウムの報告者・登壇者の配布資料であること)



東京学芸大学  
先端教育人材育成推進機構  
外国人児童生徒教育推進ユニット

# Ⅰ 本事業の目的・内容

高等学校の外国人生徒等教育・日本語指導の充実に向け、「特別の教育課程」制度の利用と、その制度を利用した包括的な枠組みの構築が期待される。調査研究は、高等学校が「特別の教育課程」による日本語指導を導入し、外国人生徒等がその実態に応じた日本語指導や教科学習支援を受けられるように、関連する情報や参考となる先進事例を収集・提供すること、さらに制度を活用するための研修の場を提供することを趣旨とする。

先進事例の収集・提供と研修活動を通して、以下5点の推進に努める。

- ①本制度の周知
- ②外国人生徒の実態への理解と支援の必要性に対する認識の形成
- ③高等学校における指導・支援体制の整備
- ④外国人生徒への日本語指導と学習支援の内容と方法の質的向上
- ⑤地域の住民、産業等との連携による教育コミュニティの形成

# 研修の実施

文部科学省「高等学校における日本語指導体制整備事業」（令和4年度）で作成した『手引』『ガイドライン』を活用して研修を実施し、教育委員会、学校管理職・担当教員に対し、「特別の教育課程」の理解を促し、日本語指導・教科学習支援・キャリア教育・多文化共生教育等を関連付けて設計し、実施できるようにする。ニーズに合わせて、次の2つのタイプの研修を提供する。

## ①オンライン研修

「特別の教育課程」による日本語指導の制度の内容と運用方法について情報を提供する。整備しなければならない体制や、教育課程上の位置づけ、生徒の卒業までの履修計画の重要性に関する内容で構成。

## ②対面研修（ワークショップ型）

日本語指導・教科学習支援の方法について、実態把握・個別の指導計画の作成、日本語教育の方法、教科と日本語の統合学習、評価について実践的スキルを高めるための内容で構成。

# 先進事例の収集と公開

「特別の教育課程」の導入、体系化された日本語指導、日本語指導と教科学習の統合、地域団体、テーマ・コミュニティとの連携による支援・活動、地域産業や企業との合同によるキャリアガイダンスなどの取り組みを収集し、各地での事例を参考に取り組みを推進できるように、広くウェブサイト等で公開する。

事例の収集方法として、次の二つの方法を採用。

- ①先進的な取り組みをしている高等学校へ視察をし、生徒、教員への面談、授業の参観、管理職からの運営状況の聞き取りなどを実施する。
- ②本調査研究活動の一環として行う研修に、独自の取り組み、新たな挑戦を行っている高等学校をゲストとして招き、実践事例として紹介してもらう。

## 2 実施報告

### (1) 高等学校における日本語指導・体制整備研修

オンライン（全5回）～ Web会議システム zoomにて

	日時	内容(予定)
1	6月25日(日) 9:30-12:00	「特別の教育課程」による日本語指導
2	7月12日(水) 14:30-16:30	外国人生徒等のための「個別の指導計画」
3	8月10日(木) 13:00-16:00	キャリアと日本語指導・教科学習支援
4	10月11日(水) 14:30-16:30	文化間移動とことばの発達
5	12月2日(土) 9:30-12:00	地域との連携による支援

### 対面（全3回）

	日時	会場	内容(予定)
1	7月27日(木) 13:00-16:00	東京学芸大学 (東京都)	高等学校の日本語指導の内容構成開発と実践 -「特別の教育課程」による日本語指導の充実に向けて-
2	9月29日(金) 13:00-16:00	宮城教育大学 (宮城県)	定時制高等学校における外国人生徒等教育の取り組み -情報の共有と学校間の連携に向けて-
3	9月15日 13:00-15:00	敬和学園高等学校 (新潟県)	散在地域の高等学校における 日本語指導の充実に向けた取り組み(仮)

## (2) 取り組み校の視察

視察協力校	視察日	報告
北海道立函館工業高等学校(定・工業・学)	12/12	
川崎市立川崎高等学校(全・普・学)	7/11	第1回オンライン研修
東京都立荻窪高等学校(定・普・学)	9/14	第4回オンライン研修
東京都立飛鳥高等学校	2024年1月に視察予定	
群馬県太田フレックス高等学校(定・普・単)	7/19、12/15	県の施策についてシンポジウムで報告
茨城県立結城第一高等学校(全・普・学)	9/27	第4回オンライン・シンポジウムで報告
茨城県立石下紫峰高等学校(全・普・単)	10/27	第5回オンライン研修
愛知県立御津あおば高等学校(全・普・単)	10/4	第4回オンライン・シンポジウムで報告
愛知県立知立高等学校(全・普・学)	10/10	第4回オンライン研修
大阪府立大阪わかば高等学校(全・普・単)	11/14	第5回オンライン研修
大阪府立桃谷高等学校(定・普・単)	11/14	シンポジウムで報告



パネルディスカッション | 3:00-16:00

## 高等学校の外国人児童生徒等教育の充実に向けて －制度化による可能性と課題－

- 趣旨説明 東京学芸大学 本事業調査部会部会長 齋藤ひろみ 10分
- 発題 1 茨城県立結城第一高等学校 校長 堤 祐二先生 20分
- 発題 2 愛知県立御津あおば高等学校 校長 森田恭弘 先生 20分
- 発題 3 群馬県教育委員会事務局 高校教育課 指導主事 澤田太郎先生 20分
- 発題 4 東京学芸大学 名誉教授 佐藤郡衛先生 20分
- ディスカッション 20分
- 質疑応答 30分（最後にお一人2分程度のコメント）

# 高等学校における外国人生徒等教育の課題

- 1) 外国人生徒等の学習の機会の保障
- 2) 計画的組織的な指導・支援による日本語指導の質的改善
- 3) 外国人生徒等の修了後の社会参画・キャリア支援の充実
- 4) 多文化共生の実現に向けた市民性の育成への取組
- 5) 担当者の専門性の向上と地域における支援ネットワークの形成

東京学芸大学(2022)『高等学校における外国人生徒等の受入の手引』

## 日本語指導の「特別の教育課程」としての正規課程化

高等学校現場でどのように実装化されるのか。上記の課題は解決されるのか。

制度的な多様性	教育課程・学科・単位履修	入学者選抜特別枠の有無	
教育内容の多様性	学校の教育方針	卒業後の進路	生徒集団の特性
自治体の対応の多様性	地域の国際化の状況	外国人住民の支援状況	自治体の外国人児童生徒教育施策



## 本制度の実装化に見られる特徴

- ・教育課程における日本語指導の位置付けと単位数
- ・日本語指導の内容, 教科学習, キャリア等との関連付け
- ・校内の組織的な指導体制・外部支援者との連携の違い
- ・母語による支援の配置と機能

## 決定要因

- 1) 地域社会のダイバーシティ(外国人生徒の移動の状況)
- 2) 都道府県の人的配置を含む体制や地域団体との連携の仕組み
- 3) 学校の教育方針とカリキュラム編成(教育課程と履修制度)
- 4) 外国人生徒等の日本語指導の必要度と, 学校の受入に対する認識
- 5) 指導担当者の日本語指導の専門性と資格(教員免許状)

# パネルディスカッション 論点

日本語指導を「特別の教育課程」として正規課程化したことによって、日本語指導・外国人生徒等教育は充実するのか。何が期待できるのか。

- (1) 本制度は高等学校の制度的特徴、生徒集団の特性等の違いを超えて活用できるのか。どのように実施すれば実効性を上げられるのか？
- (2) 外国人生徒等教育の今後を展望する上では学校には多様性・包摂性が求められる。本制度はそれに寄与しうるのか。さらに推進するためには、何をどう変える必要があるのか。